

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

中学1年 平成29年度重点目標					
項目1	①「学力向上に向けて」				
	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①グローバル人材の育成を進めていく、基礎学力の向上、学習意欲の喚起を行っていく。 ②生徒が自ら学ぶ姿勢、自分の意見を表現する姿勢を定着できる授業を展開していく。 ③自らの意欲を高めていくために、各種検定に目標値を設定し、取得させていく。</td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td>①わかばを活用し、学習のスケジュール管理ができるように指導していく。ガイダンスや授業を通して学習法について積極的にアドバイスをを行う。各種小テストや補習などの取り組みを徹底的に行い、学力の定着化を進めていく。 ②授業内でタブレットを積極的に活用し、思考・意見発表の機会を積極的に設定する。学習アプリを活用や、放課後に一斉に自習する時間を設定し、自ら学習する習慣の定着を図るようにしていく。 ③進路実現のために主軸となる英語の習得の目標となる英検4級の全員の取得を目標とし、漢検・数検にも積極的に取り組みさせる。</td> </tr> </table>	目 標	①グローバル人材の育成を進めていく、基礎学力の向上、学習意欲の喚起を行っていく。 ②生徒が自ら学ぶ姿勢、自分の意見を表現する姿勢を定着できる授業を展開していく。 ③自らの意欲を高めていくために、各種検定に目標値を設定し、取得させていく。	達成方法	①わかばを活用し、学習のスケジュール管理ができるように指導していく。ガイダンスや授業を通して学習法について積極的にアドバイスをを行う。各種小テストや補習などの取り組みを徹底的に行い、学力の定着化を進めていく。 ②授業内でタブレットを積極的に活用し、思考・意見発表の機会を積極的に設定する。学習アプリを活用や、放課後に一斉に自習する時間を設定し、自ら学習する習慣の定着を図るようにしていく。 ③進路実現のために主軸となる英語の習得の目標となる英検4級の全員の取得を目標とし、漢検・数検にも積極的に取り組みさせる。
	目 標	①グローバル人材の育成を進めていく、基礎学力の向上、学習意欲の喚起を行っていく。 ②生徒が自ら学ぶ姿勢、自分の意見を表現する姿勢を定着できる授業を展開していく。 ③自らの意欲を高めていくために、各種検定に目標値を設定し、取得させていく。			
達成方法	①わかばを活用し、学習のスケジュール管理ができるように指導していく。ガイダンスや授業を通して学習法について積極的にアドバイスをを行う。各種小テストや補習などの取り組みを徹底的に行い、学力の定着化を進めていく。 ②授業内でタブレットを積極的に活用し、思考・意見発表の機会を積極的に設定する。学習アプリを活用や、放課後に一斉に自習する時間を設定し、自ら学習する習慣の定着を図るようにしていく。 ③進路実現のために主軸となる英語の習得の目標となる英検4級の全員の取得を目標とし、漢検・数検にも積極的に取り組みさせる。				
項目2	②「生きる力育成に向けて」				
項目2	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①「日常の五心」を実践させ、基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせる ②社会人に必要な生活の基本的となる「7つのルール」を徹底的に取り組み、学力と人間力の繋がりを意識できるように指導していく。 ③ 道徳やピアサポートを通して、豊かな心を養っていく。</td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td>①挨拶・時間厳守・整理整頓の基本的習慣の指導していく。 ②ガイダンスや集会でメモを取ることを身体化させ「聞く」姿勢を身につけ、振り返りを行うことで意識づけをし、実践に繋げていく。 ③カリキュラムに積極的に参加させ、繰り返しや振り返りをさせていくことで、豊かな心を養うよう努める。</td> </tr> </table>	目 標	①「日常の五心」を実践させ、基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせる ②社会人に必要な生活の基本的となる「7つのルール」を徹底的に取り組み、学力と人間力の繋がりを意識できるように指導していく。 ③ 道徳やピアサポートを通して、豊かな心を養っていく。	達成方法	①挨拶・時間厳守・整理整頓の基本的習慣の指導していく。 ②ガイダンスや集会でメモを取ることを身体化させ「聞く」姿勢を身につけ、振り返りを行うことで意識づけをし、実践に繋げていく。 ③カリキュラムに積極的に参加させ、繰り返しや振り返りをさせていくことで、豊かな心を養うよう努める。
	目 標	①「日常の五心」を実践させ、基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせる ②社会人に必要な生活の基本的となる「7つのルール」を徹底的に取り組み、学力と人間力の繋がりを意識できるように指導していく。 ③ 道徳やピアサポートを通して、豊かな心を養っていく。			
	達成方法	①挨拶・時間厳守・整理整頓の基本的習慣の指導していく。 ②ガイダンスや集会でメモを取ることを身体化させ「聞く」姿勢を身につけ、振り返りを行うことで意識づけをし、実践に繋げていく。 ③カリキュラムに積極的に参加させ、繰り返しや振り返りをさせていくことで、豊かな心を養うよう努める。			
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」				
項目3	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①学校評価を実施することにより、改善・改革と教育活動の向上を図っていく。 ②開かれた学校を目指し、情報公開を進めていく。</td> </tr> <tr> <td>方 法</td> <td>①授業参観を学期ごとに実施し、教育活動の視覚化を進めていき、保護者からの意見を検討していく。 ②定期的な学校だより・学級通信・学年通信・進路部通信・生徒部通信等を通して、積極的に活動報告や情報公開をすすめていく。</td> </tr> </table>	目 標	①学校評価を実施することにより、改善・改革と教育活動の向上を図っていく。 ②開かれた学校を目指し、情報公開を進めていく。	方 法	①授業参観を学期ごとに実施し、教育活動の視覚化を進めていき、保護者からの意見を検討していく。 ②定期的な学校だより・学級通信・学年通信・進路部通信・生徒部通信等を通して、積極的に活動報告や情報公開をすすめていく。
	目 標	①学校評価を実施することにより、改善・改革と教育活動の向上を図っていく。 ②開かれた学校を目指し、情報公開を進めていく。			
	方 法	①授業参観を学期ごとに実施し、教育活動の視覚化を進めていき、保護者からの意見を検討していく。 ②定期的な学校だより・学級通信・学年通信・進路部通信・生徒部通信等を通して、積極的に活動報告や情報公開をすすめていく。			
中学2年 平成29年度重点目標					
項目1	①「学力向上に向けて」				
	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①グローバル社会での問題解決に必要な「自ら学ぶ姿勢」を育成するため、学力の更なる向上、学習意欲の喚起を進めていく。 ②自分の意見を表現できる環境の構築のため、ICTを活用した指導を構築する。 ③実践的英語力を育成するために、英語4技能の土台構築に引き続き取り組み、その上で全生徒の各種検定への合格およびスコアアップを目指す。</td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td>①昨年度から実施しているわかばの活用を更に発展させ、自ら学習を管理するように指導していく。「授業の受け方・メモの取り方」が身体化できるような授業・ガイダンスの工夫を行う。また、小テストや補習体制を昨年に引き続き設定するとともに、中位層以上に向けた「学習する意味」を考えさせるような講習を設定していく。 ②昨年度より実施してきたタブレットを活用した授業展開に関して検証を行い、アクティブラーニング教育への活用、プレゼンテーションへの活用の機会を積極的に用意する。そのことで自分の意見を表現するトレーニングを行う。 ③昨年度に引き続き、進路実現及びグローバル化対応に必須である英語に重点を置き、教科と学年が連携しながら英語力向上を図る。目標として全員実用英語技能検定3級合格を目指すとともに、既に到達している生徒に対しては更なるスコアアップの意欲付けを行っていく。</td> </tr> </table>	目 標	①グローバル社会での問題解決に必要な「自ら学ぶ姿勢」を育成するため、学力の更なる向上、学習意欲の喚起を進めていく。 ②自分の意見を表現できる環境の構築のため、ICTを活用した指導を構築する。 ③実践的英語力を育成するために、英語4技能の土台構築に引き続き取り組み、その上で全生徒の各種検定への合格およびスコアアップを目指す。	達成方法	①昨年度から実施しているわかばの活用を更に発展させ、自ら学習を管理するように指導していく。「授業の受け方・メモの取り方」が身体化できるような授業・ガイダンスの工夫を行う。また、小テストや補習体制を昨年に引き続き設定するとともに、中位層以上に向けた「学習する意味」を考えさせるような講習を設定していく。 ②昨年度より実施してきたタブレットを活用した授業展開に関して検証を行い、アクティブラーニング教育への活用、プレゼンテーションへの活用の機会を積極的に用意する。そのことで自分の意見を表現するトレーニングを行う。 ③昨年度に引き続き、進路実現及びグローバル化対応に必須である英語に重点を置き、教科と学年が連携しながら英語力向上を図る。目標として全員実用英語技能検定3級合格を目指すとともに、既に到達している生徒に対しては更なるスコアアップの意欲付けを行っていく。
	目 標	①グローバル社会での問題解決に必要な「自ら学ぶ姿勢」を育成するため、学力の更なる向上、学習意欲の喚起を進めていく。 ②自分の意見を表現できる環境の構築のため、ICTを活用した指導を構築する。 ③実践的英語力を育成するために、英語4技能の土台構築に引き続き取り組み、その上で全生徒の各種検定への合格およびスコアアップを目指す。			
達成方法	①昨年度から実施しているわかばの活用を更に発展させ、自ら学習を管理するように指導していく。「授業の受け方・メモの取り方」が身体化できるような授業・ガイダンスの工夫を行う。また、小テストや補習体制を昨年に引き続き設定するとともに、中位層以上に向けた「学習する意味」を考えさせるような講習を設定していく。 ②昨年度より実施してきたタブレットを活用した授業展開に関して検証を行い、アクティブラーニング教育への活用、プレゼンテーションへの活用の機会を積極的に用意する。そのことで自分の意見を表現するトレーニングを行う。 ③昨年度に引き続き、進路実現及びグローバル化対応に必須である英語に重点を置き、教科と学年が連携しながら英語力向上を図る。目標として全員実用英語技能検定3級合格を目指すとともに、既に到達している生徒に対しては更なるスコアアップの意欲付けを行っていく。				
項目2	②「生きる力育成に向けて」				
項目2	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①「7つのルール」の徹底に継続して取り組むことで、社会人として生活するための土台を構築する。 ②道徳や特別活動の時間、学校行事などを通して、目標設定と振り返りの大切さを学び、最後までやり通す力を身につけるよう指導する。 ③自らが学ぶ環境をよりよいものにするために、「あいさつ」「遅刻防止」「校内美化」を徹底することを実感させる。</td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td>①昨年度に引き続き「7つのルール」を土台とした生徒指導を行い、まずは学校の中で模範となれるような振る舞いができ、それにより自己肯定感が増すように指導していく。そのような指導を通して、生徒が社会でも十分通用するマナーを身につけることを目指す。 ②環境学習旅行、体育祭、文化祭、合唱コンクールに対して徹底的に取り組むことにより、問題解決において最後までやり通すことの大切さを実感できるように指導していく。その中で人間関係の問題について解決する力や行事におけるアイデアを出す力を、道徳やピアサポートを通して指導していく。 ③これら3つの点に関して「言われたからやる」「ルールだからやる」という意識から脱却し、周囲の環境を自ら良くしていくことが自分のためにもなるという点を理解できるよう指導していく。</td> </tr> </table>	目 標	①「7つのルール」の徹底に継続して取り組むことで、社会人として生活するための土台を構築する。 ②道徳や特別活動の時間、学校行事などを通して、目標設定と振り返りの大切さを学び、最後までやり通す力を身につけるよう指導する。 ③自らが学ぶ環境をよりよいものにするために、「あいさつ」「遅刻防止」「校内美化」を徹底することを実感させる。	達成方法	①昨年度に引き続き「7つのルール」を土台とした生徒指導を行い、まずは学校の中で模範となれるような振る舞いができ、それにより自己肯定感が増すように指導していく。そのような指導を通して、生徒が社会でも十分通用するマナーを身につけることを目指す。 ②環境学習旅行、体育祭、文化祭、合唱コンクールに対して徹底的に取り組むことにより、問題解決において最後までやり通すことの大切さを実感できるように指導していく。その中で人間関係の問題について解決する力や行事におけるアイデアを出す力を、道徳やピアサポートを通して指導していく。 ③これら3つの点に関して「言われたからやる」「ルールだからやる」という意識から脱却し、周囲の環境を自ら良くしていくことが自分のためにもなるという点を理解できるよう指導していく。
	目 標	①「7つのルール」の徹底に継続して取り組むことで、社会人として生活するための土台を構築する。 ②道徳や特別活動の時間、学校行事などを通して、目標設定と振り返りの大切さを学び、最後までやり通す力を身につけるよう指導する。 ③自らが学ぶ環境をよりよいものにするために、「あいさつ」「遅刻防止」「校内美化」を徹底することを実感させる。			
	達成方法	①昨年度に引き続き「7つのルール」を土台とした生徒指導を行い、まずは学校の中で模範となれるような振る舞いができ、それにより自己肯定感が増すように指導していく。そのような指導を通して、生徒が社会でも十分通用するマナーを身につけることを目指す。 ②環境学習旅行、体育祭、文化祭、合唱コンクールに対して徹底的に取り組むことにより、問題解決において最後までやり通すことの大切さを実感できるように指導していく。その中で人間関係の問題について解決する力や行事におけるアイデアを出す力を、道徳やピアサポートを通して指導していく。 ③これら3つの点に関して「言われたからやる」「ルールだからやる」という意識から脱却し、周囲の環境を自ら良くしていくことが自分のためにもなるという点を理解できるよう指導していく。			
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」				
項目3	<table border="1"> <tr> <td>目 標</td> <td>①「開かれた学校」を目指すための情報発信を継続して行う。 ②保護者会や面談での意見や学校評価アンケートの内容を吟味し、教育活動の質向上に必要なものを検討していく。</td> </tr> <tr> <td>達成方法</td> <td>①昨年度と同様に学年通信・学級通信・学年進路部通信などの発行を通して、学年やクラスの活動に関して積極的に情報発信を行っていく。今年度はanabaの活用についても検討していく。 ②それぞれの問題に対し、保護者から多様な意見があることをオープンにする。そのことでどの意見が環境向上のために重要かを検討し、学年方針を工夫していく。</td> </tr> </table>	目 標	①「開かれた学校」を目指すための情報発信を継続して行う。 ②保護者会や面談での意見や学校評価アンケートの内容を吟味し、教育活動の質向上に必要なものを検討していく。	達成方法	①昨年度と同様に学年通信・学級通信・学年進路部通信などの発行を通して、学年やクラスの活動に関して積極的に情報発信を行っていく。今年度はanabaの活用についても検討していく。 ②それぞれの問題に対し、保護者から多様な意見があることをオープンにする。そのことでどの意見が環境向上のために重要かを検討し、学年方針を工夫していく。
	目 標	①「開かれた学校」を目指すための情報発信を継続して行う。 ②保護者会や面談での意見や学校評価アンケートの内容を吟味し、教育活動の質向上に必要なものを検討していく。			
	達成方法	①昨年度と同様に学年通信・学級通信・学年進路部通信などの発行を通して、学年やクラスの活動に関して積極的に情報発信を行っていく。今年度はanabaの活用についても検討していく。 ②それぞれの問題に対し、保護者から多様な意見があることをオープンにする。そのことでどの意見が環境向上のために重要かを検討し、学年方針を工夫していく。			

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

中学3年 平成29年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	達成方法
	達成方法
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	達成方法
	達成方法
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	方 法
高校1年 平成29年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	達成方法
	達成方法
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	達成方法
	達成方法
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
達成方法	

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

高校2年 平成29年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	コアクラスからでもGMARCHに合格できる学力を養う。
	コアクラス: 高校2年時のGMARCH合格者センター試験平均点(校内)を上回る。
	アドクラス: 高校2年時の早慶上理合格者センター試験平均点(校内)を上回る。
	GLCクラス: TOEFLiBTスコア75(α)、57(β)を目指す
達成方法	学年小テスト(英・数・国)の実施: 毎週実施
	Ichi-go programの実施: 月・火・木・金曜日(15:15~15:30)に模試対策をおこなう
	放課後延長自学自習の実施
	進路カルテの活用
	日々の授業を大切にす
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	7つのルールの徹底より、他者を思いやる心を育成し、「人のために生きる」価値と喜びを感じられるようになる。
	クラス種別を問わず、英語力、プレゼンテーション能力を向上する。
	「与えられる人」から「自ら考えて行動する人」になる。
	委員会活動や係活動にやりがいを持たせる。
達成方法	マナー、モラルを重視し、中学時と同様に指導する。マナーやモラルは、人の生き方・生き様に直結してくることをLHR等で理解させる。
	授業内で発表の機会を計画的に設ける。
	今、何をすべきなのかを常に考えさせる機会をもつ。
	学びのサプリの中でも高2から導入でき、かつ、効果的な方法を取り入れる。具体的には「聞く力」の育成と徹底。
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	タブレットを有効活用し、多様な教育方法を提供する。
方達成	manaba、ロイノートを授業以外でも有効活用し、稼働率を高める。
	スタディサプリを有効活用する。
高校3年 平成29年度重点目標	
項目1	①「学力向上に向けて」
	目 標
	生徒一人一人の偏差値を+5上げることを目標とする。
	生徒一人一人が希望する大学に合格できるように、希望大学別ガイダンスと講習を充実させる。
	生徒自らが積極的に学習に取り組めるような環境を整備する。
	達成方法
・模試分析結果を学年で共有し、生徒個々の弱点を把握し、次の模試に備えさせる。	
・集中して学習する習慣を確立させるための自学自習環境を提供する。	
・「進路カルテ」を作成し、各個人が模試ごとに目標を設定し、目標達成のための具体的計画を考えさせる。	
・勉強合宿や大学職員による大学別ガイダンス・大学ツアーなどを実施し、受験意識を高めるようにする。	
項目2	②「生きる力育成に向けて」
	目 標
	メリハリのある生活習慣を確立(自己管理能力を育成)させる。
	集団における自己責任能力の育成を目指す。
グローバル化を想定した将来設計像の構築を促す。	
達成方法	・「常に前向きな思考を持つこと」が、1年後の進路決定や日常生活にプラスの影響を与え、「悲観的な発言をすること」はマイナスの影響を与えることを再度理解させる。
	・学年全体で学力が向上するための方法を、場面ごとに具体的に生徒に示す。
	・受験に対するメンタル的影響について、面接やガイダンスを通して個々の生徒に対応していく。
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」
	目 標
	・保護者対象のガイダンスの充実をはかる。
	・学年の活動や進路指導に関する保護者の理解と協力をいただけるように情報を提供していく。
達成方法	・保護者ガイダンスを通して、本校の進路指導方針、及び現在の大学入試のあり方について具体的に提示する。
	・進路通信や学年通信を通して、大学入試の変更点などの情報をいち早く保護者・生徒・教員で共有できるように心がける。
	・2年間行ってきた、時間管理の重要性などについての取り組みを、今年度も継続する。